

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都西東京市
園名	アスクたなし南町保育園

1. 活動のテーマ

バランス力を上げよう

<テーマ>

<テーマの設定理由>

散歩中や部屋でのサーキット遊びを通してバランス遊びに親しむ機会が多くなったり子どもたちも楽しんで参加する様子がある。そこで体操講師と連携して、様々な道具や環境により色々なバランスがあること、身の回りのバランスに親しんで考えたり、挑戦してバランスについて探求することにした。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、月に1回体操の専任講師を承知して活動を行い、子どもたちが興味や疑問を持ったことに対し深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6月～10月：バランスとは何かを考え、身近なバランスに挑戦したり、平均台を使ってバランスのとり方を考える。

11月：ボールを使ってバランスを取る方法を考えたり、友だちと一緒に協力してバランスを取る方法を考える。

12月・1月：縄跳やボール、平均台を使ってバランスを取る方法を考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・平均台・丸形のマット・縄跳・・・バランスを取るためにはどこに力を入れればよいか、手の位置はどこにするかを考えたり、試したりした。
- ・丸形のマット・・・子どもたちの好きな遊びを通して(けんけんぱ)、バランス力を身につけ、バランスのとり方を考えられるようにした。
- ・カラーボール・・・色々なバランスがあることを知り、身体の使い方やバランスのとり方をより深く考える。
- ・ボール・・・友だちと協力してバランスを取る方法を考えて挑戦をするようにする。
- ・バランスボード・・・バランスボードをつかったバランスやルールのある遊びを考える。
- ・鉄棒・・・鉄棒を使いながらバランスのとり方を知ったり、バランスを考える。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

平均台を通して「どうしたらバランスにとって渡り切れるかな」と問いを持ち、子どもたちと話し合ったり、友達がどのように渡っているかを観察しながら、バランス方法を考えて試していった。

探究活動の様子：

平均台では、「どうしたら下に落ちずにゴールできるかな」と子どもたちと考えながら試していった。グループ活動では、自然と手を伸ばしてバランスのとりやすい体の形を作る姿や、友だちの様子を観察して「てをピンとのぼしてる！」と保育者や友だちに伝え気付いたことを生かしながら挑戦していた。

バランスを取ることに自信がついてきたため、丸形マットを使ってけんけんぱの練習をした。平均台の時とは違うバランスで、着地でグラグラしたり、片足が床についてしまったり思い通りにいかず、悔し涙を浮かべる姿もあった。

ボール運びの際には「てをつないでみよう」と力を入れて押し合うことでバランスを取ることが出来、ボールを落とさずにゴールに向かう姿がられた。ボールが落ちてしまうとその都度どうしたらバランスがとれるかを考えて、挑戦し試していった。

簡単なバランスから応用バランスまで色々なことに挑戦したが、体操以外でもお散歩中にけんけんぱをしたり片足バランスをして、バランスについて考える姿が増えた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

バランスについて子どもたちと考えた時に、今までの経験を振り返ったり・友だちの動きを観察したり・友だちと意見を出し合ったり自ら積極的に考える姿が見られた。バランスについて考えた時に、子どもたちからは色々な考えが出てきたため、今後も子どもたちの気づきや発見に耳を傾け、色々なことに興味関心をもって取り組めるようにしていきたい。

【4歳児実施分】

問いを考える：バランスとは何か子どもに問いかけ、子どもがそれぞれバランスについて答えたり、考えられるようにした。子どもにバランスとは何か伝えるときに子どもの普段の姿からどのような動きがバランスなのか伝え、子どもが普段の生活からバランスについて考えていけるようにした。バランスについて知ったあとはバランスをとって身体を動かす遊びに何があるのか子ども同士で考え、実践できるようにした。

探究活動の様子：バランスについて考えるときに「こうするんじゃない」「わかんない」と考えを言葉にし、グループの子に実際に身体を動かして伝えていた。バランスとはどういったものがあるのか伝えると「知ってる！」と声を出し片足立ちの動きをしていた。バランス遊びでは片足立ちから始まったが身体がゆらゆら動く様子を楽しんでおり、誰が一番片足立ちできるか競うと張り切ってバランスをとったり、中には「こうすれば上手くできるよ」「見て上手くできた」と言い教えている子がいた。その後はグループに分かれてでこぼこ道のサーキットの上を歩いたり、その上でどんじゃんけんや細い道での鬼ごっこをしたりしてバランスをとって歩く遊びを行った。その中でふらふらになった際に「両手をひろげて歩くのはどうかな」「カニ歩きをすれば歩けるよ」と今まで教えてもらったことを自分から探求し身体を動かしていた。そこから子ども同士で話し合い「落ちたら負けだよ」とバランス遊びのルールを追加していた。グループで考えて遊ぶだけでなくバランスをとって歩くのが苦手な子に対しては手をつないだり、落ちてしまったときに「もう一回やろう」「そこからまた歩こう」とグループ内で助けたり、見学していた他のグループの子が応援したり助けたりする姿も見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：「こうやって両手を高くするんだよ」と子どもの考えを言葉にしたり、自分のできることを教えたり、子ども同士の関わりの中でバランス遊びに触れられていると感じた。バランスをうまく取れない子もいたが子ども同士で「手を繋いでやろう」と助けたり、「こうするんだよ」と身体を支えたりしてバランス遊びに意欲的な子が多く遊びの中でバランス遊びに挑戦していた。バランス遊びを新しく考えるのは苦手なようで「鬼ごっこをやろう」「どーんじゃんけんをしよう」と既存の遊びをすることがほとんどだったが「落ちたら交代」と言って鬼ごっこをしたり、「これも並べようよ」と小さな足場を用意し、バランスを取って歩くこととジャンプして身体を動かす動きを合わせてどんじゃんけんをしたりと遊びのルールを子ども同士で話し合っ追加し、子どもの考えて身体を動かす力の成長を感じられた。

【5歳児実施分】

問いを考える：「バランスにはどんなものがあるか」問いかけ、体や色んな道具を使いながら考えていたり、友だちの発表するバランスをみながら色んなバランスがあることを知っていった。また、バランスを遊びにつなげ、どんな遊びができるか子どもと一緒に考えていった。

探究活動の様子：初めはバランスについて家庭で通っている体操教室などで聞いた知識から、片足立ちやY字バランスなどをする様子があった。その後、保育士やキャスト講師に「これもバランスだよ」と言われると色んなポーズを取りバランスへの考え方が広がり徐々にたくさんアイデアが広がる様子が見られた。

道具を使ったバランスでは今までは出てこなかったバランスが生まれたり、「私もやってみたい」「私もできるよ」といった興味や意欲を持ったり、楽しむ様子が見られた。

また、道具を使った遊びでは講師をと一緒にルールを考えたり、いつもの遊びのバランスバージョンを考えたり、主体的にルールを決める姿が見られた。また、遊びの中で困ったことがあった場合はルールを追加したりと工夫して行うことができていた。最後にはグループで好きなバランスを相談し、発表会を行った。

ふりかえり（保育士の気づき）：子どもたちのバランス力に加えて、考える力の発達につながっていると感じた。バランスについては最初は知識が偏っていたり、知らなかったりする子が多かったが、色んなバランスに触れることで色んなバランスを楽しむことができたり、バランス力につながったりしていっていると感じた。また、ルールのある遊びをこ

こちらから教えるのではなく、自分たちで考えたり、ルールを混ぜたりすることで新たな遊びになり、それを行うための考える力の成長につながっていた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。

(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。

(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5 歳児



すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都西東京市
園名	アスクたなし南町保育園

1. 活動のテーマ

生活と音

<テーマ>

<テーマの設定理由>

日頃から様々な音をキャッチし保育者へ質問したり、聞こえた音に対して興味関心を持つ様子がみられ、音楽専任の講師による音楽プログラムでの音遊びの活動を楽しんでいる。そこで、音楽講師と連携して、生活の中に隠れている音に親しみを持ちながら考えたり音を作って探究することとした。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、月に1回音楽の専任講師を承知して活動を行い、子どもたちが興味や疑問を持ったことに対し深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6月～8月：生活の中や身近にある音に着目し、音探しをしながら音の鳴り方や聞こえ方について探求する。

9月～11月：様々な音(楽曲)を聴き、自分が思ったり想像したイメージを色や形で表現し、その違いを探求する。

12月・1月：身近な素材を使って自分たちで楽器作りをしながら音の鳴り方、その仕組みへの探求を深める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

イラストカード・・・音のサインを考える

CD・CD デッキ・・・子どもの好きな音源を活用し、オノマトペを探せるようにしたイラスト付きのコピー用紙・クレヨン・・・音を聞いてどのくらいの強さの雨なのか、またどんな動物が考えられるか想像し、絵に描く

スカーフ・・・音楽を聴き、何色のイメージがつくのか考える

紙コップ・・・自分で紙コップマラカスを作り、音の仕組みや種類を考える

鍵盤ハーモニカ (ヤマハ・スズキ)・・・音のなる仕組みを考えたり、音階を鳴らす

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：身近な環境や素材から聞こえる音やオノマトペ探しをする中で「この音はどこで鳴っている音なんだろう?」「どんな時に使う音なんだろう?」など考えながら行い、音への関心を持ったり深めたりしながら音の仕組みを考えられるようにしていった。

また、手作り楽器(マラカス)やイラストカードを使って「この素材を入れるとこんな音になるんだ」「この場面ではどんなオノマトペが使われるんだろう?」と深く考えたりもしていった。

身近な「音のサイン」について考え、声を使ってサインを発信したり物を叩いて音で発信したりし、生活の中にある音を探し出す活動も行った。

探究活動の様子：身近な環境(園内、散歩先など)での音探しでは「玩具の音が聞こえる」「調理さんがお料理している音がする」、「電車、踏切の音が聞こえる」「飛行機の音がする」と普段何気なく過ごしている環境から音を探し出す姿が見られた。グループ活動を取り入れ、イラストカードを使って音のサインや音の種類を考えると、自分が日常生活で聞いている音でも、音だけで聞くと中々思い出せず苦戦して考え合う様子もありながら「消防車の音」「クラクションの音」など知っている音を見つけ、同じグループの友だちと喜び合っている様子も見られた。

手作り楽器では、自分の好きな玩具や素材を紙コップに入れマラカスを作っていた。玩具

や素材の大きさによって聞こえる音が違ってきたり、入れる量によっても違いがあることに気が付く子がいた。マラカスから聞こえる音に対して「カラカラ」「シャカシャカ」とオノマトペで表現する子もいるようだった。友だちや保育者と、自分のマラカスからどんな音が鳴ったのか共有し合って手作り楽器への考えを深めている様子があった。

ふりかえり(保育士の気付き)：普段の何気ない生活の中からいろいろな「音」やオノマトペが見つかり、大人の立場でも新たな発見が多くあった。保育者自身の新たな気付きや発見、驚きなどなどを子どもたちと共有することで、子どもたちも自分自身で行うよりもわくわくした様子で探究活動を進められているようだった。

子どもたちが園内で見つけた身近な音を園外で探してみたり、似ている音を探してみたりすると「あ！この音〇〇の音と似てるね」「この音聞いたことあるよ」など様々な気付きに繋げることができた。手作り楽器のマラカスでは子どもたちが「入れてみたい」と言う素材を使用することで、より探究活動を深められていた。身近にあるものを自分たちで見つけることで、音に対する子どもたちの興味や探究することへの意欲を引き出すことが出来たので良かった。

【4歳児実施分】

問いを考える：日常の中で耳にする音にはどんなものがあるか子どもが知れるよう園内の音を探し、発表した。そのあとは音を聞いてどんな音がクイズをして音に対して関心を持てるようにしたり、音を聞いて何を想像するか子どもが考えられるようにした。音に対して関心を持った後は楽器に子どもが関心を向けるように問いかけ、身の回りの物を使って手作り楽器を作り好きな歌に合わせて音を出した。その中で楽器を叩く強さや音が出るところを抑えると音が変わることに気付き、子ども同士で話し合い楽器の音探しが出来るようにした。最後は実際の楽器を使って合奏をして音を出す楽しさを味わえるようにした。

探究活動の様子：少人数でのグループに分かれて日常の中での音を探したが「おもちゃの音」「泣いている音」と一人が答えると同じ答えを答えていた。音を探すのは苦手だが音から想像して答えるのは好きな子が多く、ざわざわしている音から「車！」「飛行機！」「話している人」などたくさん自分の考えを言葉にしてグループの子に伝え、そこから「道路」など想像を広げていた。

手作り楽器では音を出すのを楽しみ、グループ活動で楽器を作り終わると近くにいる友だちに「〇〇くん見みてみて！」と音を出してどんな音がするか披露していた。また手作

り楽器で知っている楽器が出てくると自分の知っていることをグループの子に教えたりしていた。また手作り楽器の素材によって音が変わる様子を見て楽器を叩く強さを変えたり、「太鼓を机に置いてたたくと音が鳴らない」と音が鳴らないこともあることに気づき、太鼓をたたいているときに太鼓を抑えると音が止まる様子を見て「音がなくなった」と探求し、音の変化に気付いていた。楽器を使った演奏では好きな楽器を使って好きな音を出して「次はこの楽器をやりたい」「この音好き」と色々な楽器に触れ、楽器の音について探求していた。グループでどんな歌を流して楽器の演奏をするか相談しており、自分はこの楽器がやりたいと張り切って演奏していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：活動を通して想像することが得意な子が多く感じられた。子ども同士で関わりを増やして色々な考えに触れられるようグループワークを行った際に自分の知っていることや気付いたことを言葉にして周りの子に教えていく姿が見られ、子ども同士で感じたことの共有が出来ていると感じた。音を探すのは一つ手本を見せると「こうすればどうなるんだろう」と色々試し、音の変化があるときに「音が小さくなった」「こうすれば音が変わる」と周りの子に報告していき、音の変化について気づく姿が見られ、想像して考えたり、楽器に触れ音の変化について触れられたため子どもの成長にうまく繋がれたと感じた。

【5歳児実施分】

問いを考える：日常生活で必ずある生活の音に注目し、どんな音が聞こえるかどんなことをしているか想像するように問いかけた。また、そこからどういうものが音が鳴っているか着目し、おもちゃや自然物、そして楽器へと視野を広げていった。

探究活動の様子：日常の中の音を聞く中で「泣いている声がする」「カチャカチャフォークの音がする」といろいろな音に気付く様子が見られた。また、「これは何の音だろう？」とよく聞き考える姿があった。しかし、普段聞いている音でも音だけで聞くと違った音に聞こえたり、何の音か深く考える様子があった。その後は玩具や自然物、楽器を順に使い、見えない状態から音を聞き何の音か当てるクイズをしたり、似ている音があった場合なぜ似ているのか考えたりし素材によって音が似ていると気づく姿があった。

その後は素材での違いだけでなく同じ素材でも音階があり音の違いがあることに着目していった。ストローの長さによって音が変わることを実際に試して「音が違う！」と驚く様子があった。また、ボトル缶を使い水の量をグループで相談し合いながら特定の音階を作

る際には、「もうちょっと入れてみよう」「ちょっと減らしてみよう」と試行錯誤しながら音階をつくる様子見られた。そのあとは実際の楽器を使い音階がどうやってできているか考えながら楽器を使った演奏や合奏を行った。

ふりかえり（保育士の気づき）：初めは保育士の問いかけから始まった活動だが徐々に子どもたちからも「こうしたらどうなるんだろう」「これやってみようよ」と意欲的に探究を進める姿をみることができた。また、思った以上に日常の中で目から入っている情報が多く、音のみに着目するだけでもいつもとは違った考え方、遊びとなることが分かった。音以外にも目だけ匂いだけなど着目していても面白いと感じた。

手作りの楽器づくりのボトル缶ではこちらのフォローがなくても主体的に活動を進めることができおり、自分たちで発見したり、「つぎはこうしてみよう」とアイデアを出し合ったりしながら進めることができよいテーマだと感じた。

3歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。



4歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を添付してください



5 歳児

